

宝物と夢

高一

私には、今年の春から晴れて小学校に入学した
いとこがいます。近くに住んでいる伯父の子供で
す。私には兄弟がいなかったので、いとこが生ま
れたときはとてもうれしい気持ちになりました。
ただ、いとこは生まれつき障害がありました。ダ
ウン症という障害です。

ダウン症は、先天性疾患で、発達が人より遅い
障害です。

やはりいとこは、立つのも、歩くのも、しゃべ
るのも人より遅かったけれど、三歳で少しずつ
しゃべるようになり、五歳で少しずつですが歩け
るようにもなりました。

私が、いとこと初めて会ったのはいとこが生ま
れて三ヶ月くらいのおときでした。いとこは生まれ
たとき、ダウン症以外に心臓の病気がありました。
その為か、生まれた直後には保育器に数日間入っ
ており、その後すぐに心臓の手術が行われました。
手術後はたくさんさんの管が身体中につながれており、

とても痛々しい姿だったそうです。私は、そのこ
ろ小学三年生くらいで、いとこに会うことができ
ませんでした。ですから、その話を聞いたのも最
近でした。聞いたときは、とても衝撃的でした。
写真を見たとき、私は涙が出てきました。たくさ
んの管につながれて本人はとても辛い思いをし
ただろうに、笑顔で写真に写っていました。それ
を見て、「よく頑張ったね。生まれてきてくれてあり
がとう。」という気持ちでいっぱいになりました。

いとこは、確かに周りの人とは少し違います。
ですが、それだけで冷たい目で見たり悪く言っ
たりしないでほしいと私は思っています。いとこ
同じ障害のある人は少なくないと思います。だか
ら、少しでもたくさんの人に障害のことや、大変
さを知ってほしいと思っています。

私が中学生になり、いとこもやっと歩けるよう
になったころ、公園に遊びに行きました。そのと
き私といとこは、砂場でお山を作って遊んでいま
した。いとこはとても楽しそうで、まぶしいくら
いの笑顔でした。そして、たまたま通りかかった
人たちがいとこに向かって、
「あの子、障害者じゃない？ 気持ち悪い。」

と笑いながら、私といとこが作った砂の山を壊していきました。

そのときの言動は、私には理解ができませんでした。確かに私のいとこは障害者手帳を持っています。けれども、皆と変わらず普通の生活をしている普通の一人の人間です。それなのに障害があるだけで、気持ち悪い、何もできない、そのような偏見をもたれたことに私は本当に腹が立ちました。

けれども、いとこは嫌な顔を一つもせず、笑顔で、

「壊れちゃったね。あの人たち足汚れてないかな。」

と言ってきました。そのとき、私は何も言えませんでした。いとこをばかにしてきた人にも何も言えず、悔しい思いをしていました。それなのにいとこは何も気にせず笑顔でいて、年下なのに私より立派に見えました。

「障害者というだけで偏見の目で見ないでほしい。」私はいとこが生まれてからこう強く思うようになりました。確かに全て理解するのは難しいと思います。私も、いとこがダウン症だと初めて聞

いたときは、どのように接したらいいのかとすることがありました。皆さんも、少しでも関わってみると大変さや楽しさなど、いろいろなことが分かってくると思います。

私は、いとこに出会ってたくさんのことを学びました。生きることの大切さ、人と関わることの大切さ、思いやることの大切さなど、たくさんのことを学びました。本当にいとこに出会ってよかったなと思います。障害も、一つの個性だと私は思います。これからは、障害のある人、体の弱い人、お年寄り、たくさんの人に優しくできる、すてきな人になりたいと思います。

私は将来、美容師になりたいと思っています。いとこのような障害のある人などを、きれいにかわいくしたいです。そしていつかは、いとことお店を開きたいなと思います。夢がなかった私に夢をくれたいとこ。いとこは私にとってかけがえのない宝物です。いつか二人でこの夢をかなえたいです。